

令和5年度 幼保小連携推進地区事業 活動報告書

「幼児・児童の育ちや学びの連続性が実る 接続期カリキュラムの開発」



下郷地区
下郷小学校
戸塚第二幼稚園



「幼児・児童の育ちや学びの連続性が実る 接続期カリキュラムの開発」

【テーマ設定の理由】

子どもたちは幼稚園や保育園でいろいろな経験をして小学校に入学してきている。したがって、子どもをなんでもやっってもらう・教えてもらう存在と捉えるのではなく、今できることを大切に、子どもの思いやアイデアを生かしていくことを大切にしたい。それを学習へとつなげて学びを広げ深めていくことで、体験・経験から実感を伴った成長を感じられるのではないかと考えた。また、継続した活動としてカリキュラムに取り入れることで、子どもたちの連続した学びが期待できるのではないかと考えた。

「幼児・児童の育ちや学びの連続性が実る 接続期カリキュラムの開発」

【推進内容等】

下郷小学校と戸塚第二幼稚園との年間を通じた交流を通して、子どもたち同士の思いや幼児期からの育ちのつながりを意識した活動を大切にしながら、学びを進めていく。主として、下郷小学校の畑で1年生と幼稚園児とで一緒にさつまいもを育てていく活動を行っていくことを中心に、過去2年間の取組の中で足りないと感じた“職員同士のつながり”も、今年度は意識して取り入れていく。

今年度の重点課題（特に力を入れたこと）

◎ **職員同士のつながりを増やすことで、互いの考えや子どもたちの成長過程を共有しながら支援・指導に生かす。**

【今年度の取り組み】

- ・ 小学校教員が保育士体験を行い、実際の保育に参加しながら保育者の支援の工夫を知る。
- ・ 互いの学校・園の行事を見る機会を積極的に設け、9年間の成長の過程を知る。
- ・ さつまいも畑の管理を一緒に行う場面を増やしたり、保育者が子どもたちの前に出て支援・指導を行う場面を増やしたりする。

連携推進地区事業の実際の取組

今年度の活動の流れ(◎職員 ★子ども)

月	内容
4月	◎職員同士の打合せ
5月	★さつまいも畑の草取り ◎保育士による小学校運動会の見学
6月	◎さつまいも畑の整地・苗植えの準備 ★さつまいもの苗植え
7月	★さつまいも畑の草取り
8月	◎小学校教員の保育士体験
9月	★さつまいも畑の草取り

月	内容
10月	◎教員による幼稚園運動会の見学 ★さつまいもほり&遊び交流
11月	◎保育士による小学校音楽会の見学 ★やきいもパーティー
12月	
1月	◎今年度の交流について振り返り
2月	★小学生による学校紹介動画作成
3月	◎来年度の交流について打合せ

5月 幼稚園児との出会い

子どもたちが一緒に活動したいという思いをもてるように、1年生がお芋ほりの準備を畑でしている時に幼稚園児と出会うことができるようにしました。

なにしているの??



一緒にしたいな。

お芋をうえる準備だよ!



偶然の出会いを演出することによって、いっしょにしたい! やってみたいという気持ちが自然と芽生えていました。

いいよ! いっしょにしよう!

5月 遊びながら 畑の整備

小学生と幼稚園児と一緒に畑の草取りを行いました。

幼稚園の先生の「草取り競争しよう！」という一言から子どもたちの意欲が高まり、楽しみながら草取りを行っていました。



自分から積極的に声をかけたり、幼稚園児に関わりに行ったりする児童はまだ少なかった。「幼稚園児のお手伝いしたい人いる？」という教師からの声かけによって関わりが出てくる場面が多く見られました。

6月 さつまいもの苗植え、お世話を通じて 助け合い



植え方を、幼稚園の先生がみんなに
教えてくれました。植える前に手遊び
をするなど、気持ちを高めてから、活
動に入ることができました。

葉っぱを上にして、穴の開いて
いるところに植えるといいよ



どこに植えるといいのか？

助け合いが声かけに
幼稚園児と一緒に苗を植え、草取りや
水やりなどのお世話を行いました。幼稚園
児に会う回数が増えるにつれて、1年
生も自分から幼稚園児に声をかける姿
が増えていきました。

10月 なかよしの輪がひろがった 収穫祭



まけないぞ！

みんなでお芋を引っ張る練習しよう！

遊びの中から気持ちを高める工夫！

うまく引っ張れないなあ



一緒に引っ張ろう！

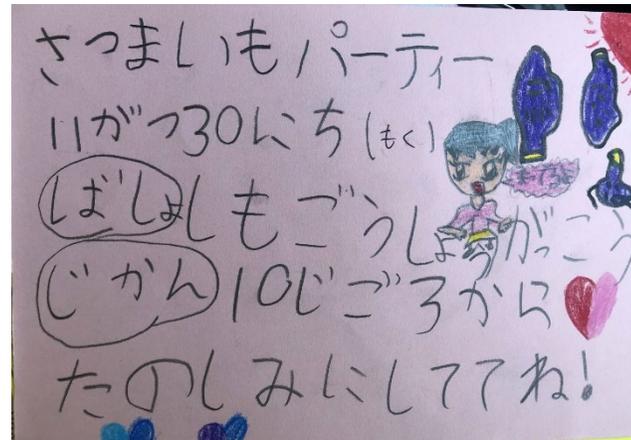


仲間意識の芽生え
最初は、幼稚園児に声をかけるのに躊躇していた児童もいましたが、回を重ねるごとに、積極的に声をかける姿が増えていきました。

10月 なかよしの輪がひろがった 収穫祭

5月から、一緒に活動が続けていくことを通して、子どもたちは自然と幼稚園児と一緒に遊ぶこと、困っていたら助けてあげるということを行っていました。

小学校に入ってからしてもらっただけであった1年生でしたが、幼稚園児との関わりが増えることによって、“自分たちからしてあげたいことを考えてする”ということもできるようになってきました。



相手意識の高まり

関わる相手がいることにより、自分たちから手紙を書きたい、一緒に遊びたいというように、積極的に考え、活動に移すという意識が高まりました。

11月 やきいもパーティー

誰のためにするのか、
何のためにするのか、
5月の出会いから目的意識をもって活動に取り組むことで、児童主体の学びにつながっていきました。

11月には、焼き芋パーティーを行いました。1年生はこの日のために、落ち葉を集めたり、ゲームを考えたり自分たちができることを考え、準備をしました。

ルールが難しいと幼稚園の子たちはわからないかな？というように、相手が楽しめる会にしていきたいという思いが強く感じられました。

もっと前からボールを投げると的に当たるよ！



なかなか、ボールがとどかないなあ・・・



仲間意識の高まり

1年生は自然と幼稚園児の輪の中に入れてあげたり、自分から関わりに行き教えてあげたりする姿が見られました。

【成果と課題】 ①

【成果】

- ・昨年度の経験を活かし、年間カリキュラムにしっかりと位置づけができたことで、教師が見通しをもつことができ、子どもの思いを引き出すことが効果的にできるようになってきた。
- ・子どもたちも継続して活動していくことで、相手意識や目的意識をはっきりもって活動を広げていくことができた。また、始めは自分から声をかけられなかった小学生が、自分から遊びに誘ったり困っている子に進んで声をかけたりする場面も多く見られ、自然なかかわりが見られた。
- ・小学生と幼稚園の子どもたちが、土をいじりながら自然と会話が生まれ、それぞれの職員の声掛けにも耳を傾ける経験ができた。幼稚園の子どもたちにとっては、小学校の先生の話聞く経験がこの年齢でできるということは貴重な時間となり、心の成長の糧になる。
- ・遊びの中から活動が生まれたり、活動を遊びにつなげたりと、保育士の子どもをひきつけるアイデアや姿勢を具体的に知ることができた。
- ・職員同士のコミュニケーションや研修を増やしたことで、お互いの引き出しが広がった。活動の目的や流れを明確にして支援ができたり、どういう思いで子どもたちを育てているのかがより具体的にわかったりした。
- ・互いの行事を見合うことで、交流していない学年の成長過程も知ることができ、それぞれの発達段階を把握し、発達に合わせるできるようになった。9年間の成長を考えることができた。

【成果と課題】②

【課題】

- ・天候や時間の制限があるため、余裕をもった時間配分や、計画が必要となる。そのため、お互いが歩みより、何より子どもを中心に据えた話合いが大切である。忙しい中ではあるが、あと一歩、話合いの時間が必要と感じた。
- ・何を大切にしたいのか、保育者と教師がねらいをはじめにしっかり考える必要がある。例えば、全て先生が主体で課題をおろすことが、よいのかどうか。子どもたちが考えて、子ども主体で、活動が変化していく方が自然であると考え。コミュニケーションの場を増やす上でも、小学生と幼稚園の子どもたちで話し合う場も作ってもよい。
- ・小学校発信の活動に幼稚園が来るという形式が多かったので、幼稚園に小学生が行くという交流もしたいと計画していたが、実現に至らなかった。来年度、そういった機会をつくることで、さらに新しい活動の広がりが生まれてくるとよいと思う。
- ・年長児と一年生との交流が主になり、昨年度ずっと交流してきた2年生は、交流がなくなってしまったので、一年生以外の学年とのつながりも考えていけるとよい。